

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部4学科体制と連動し、総合政策という本研究科の教育目標を実現するため、大学院の授業科目体系の再編成を2010年度中に検討し、2011年度より新しいカリキュラムへ移行する。	→学部4学科と連動した大学院授業科目の再編成・再体系化の有無。	A	A	A	A	A
2. 上記1で掲げた目標の中で、大学院の授業科目体系に、英語修了コース、教職科目、EU連携コース科目を適宜、配置する。	→英語修了コース、教職科目、EU連携コース科目の再編・配置の有無。	A	B	B	B	B
3. 上記1で掲げた目標の中で、総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目を、適宜、配置する。	→総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目の配置の有無および履修者数。	A	A	A	A	A
4. 上記1で掲げた目標の中で、リサーチ・プロジェクト(課題研究)を、本来の研究プロジェクトのもと、複数教員・複数院生が参加する形で行われるよう、授業科目としての履修および運営方法を再考する。	→リサーチ・プロジェクト(課題研究)の運営方法の変更の有無。	A	A	A	A	A
5. 上記1で掲げた目標の中で、大学院の授業体系の中に新たに「災害復興コース」を設置する。また、2013年度より一級建築士の受験資格となるインターンシップの科目を設置する。	→「災害復興コース」の登録者数、および一級建築士インターンシップの登録者数。	B	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度入学生より、学部4学科に接続する6領域から主領域一つを選択する新しいカリキュラムがスタートし、2012年度には、最初の博士前期課程修了者を送り出した。新たな課題として授業科目数の問題が浮かび上がった。在籍者数に比べ科目数が多いため、不開講の科目も多い。6領域それぞれに必要な科目とのバランスを考えて、2013年度中に検討する予定である。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新カリキュラムは成果を上げたが、授業科目数の問題は対処が必要で、そのために2013年度には大学院FD・カリキュラム検討委員会で検討が始まった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度をめぐりに開講科目の整理、マスターセミナーの重視などカリキュラムの改訂に向けた検討を続けた。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 英語修了コース、教職課程ともに運用中である。EU連携コースはまだ運用していない。教職課程は開設以来、修了者が1人しかおらず、ニーズを分析する必要がある。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度、英語修了コースの履修者は1人であった。ニーズ、広報の両面から検討が必要である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度にカリキュラムの変更を検討しているが、英語修了コースはグローバルキャリアプログラムとの統合を検討している。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度のカリキュラム改訂をうけ、「政策基礎」および「政策研究」を必修科目として開講している。前期課程のすべての大学院生は、主領域科目とともにこれらの科目を履修し、修士論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を修得する。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 領域横断的に基礎的方法論を学ぶことにより、修士論文の質的向上が見られるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度に予定しているカリキュラム改訂でも「政策基礎」および「政策研究」は必修科目として組み入れられる計画である。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか リサーチ・プロジェクトは2013年度春学期に4テーマ、秋学期には2テーマ開講された。リサーチ・プロジェクトの開講は担当者が申請する形でおこなわれるが、建築設計演習はリサーチ・プロジェクトとして開講されている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 必要なリサーチ・プロジェクトだけ開講されるため、本来の役割を果たしている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も同じ形式で開講していく予定である。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 建築士インターンシップ科目には2013年度に3名が登録した。災害復興コースはニーズ分析を行っているが、まだ結果が出ていないのでまだ開設していないが、災害復興や防災を研究テーマとしている大学院生もおり、指導教員もいるため、できるだけ早い時期に開設することを計画している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 建築士インターンシップ科目は2013年度の新規登録者数は2名であった。学部の建築士プログラムとも連携して成果を上げている。災害復興コースについてはまだ開設に至っていないので、必要性も含めて検討が必要である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度のカリキュラム改定に向けて検討を続けてゆく。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆